

分類・物質名:WHO 分類 (注1)	その物質が入っている可能性のある物	左欄の製品が使われている可能性がある材料	人休への影響	備考	
ホルムアルデヒド: VVOC (主2) アセトアルデヒド	接着剤の原料 接着剤の防腐剤	集成材、合板、MDF、パーティクルボード、断熱材(グラスウール)、複合フローリング、その他接着剤が使われている建材、塩化ビニルクロス	・皮膚、目、鼻などの粘膜刺激、ぜんそく、肺活量の減少、気管支炎、アレルギー	・ホルムアルデヒドの厚生労働省ガイドライン値は 0.08ppm 以下とされている ・開放型ストーブとは、室内でガスや灯油を燃やし、燃焼ガスを屋外に排気しないタイプのストーブのことをいう	
溶剤:VOC(注3)	トルエン キシレン エチルベンゼン テトラデカン など	接着剤の溶剤	断熱材(グラスウール) カーペット・コルクタイルの現場施工用接着剤	・中枢神経作用、倦怠感、吐き気、知覚異常、皮膚・目への刺激	・総称で、VOC といわれることが多い ・有機溶剤系塗料とは、油性ペイント、油性ラッカー、油性ニス、ワックスなどをいう
塗料の溶剤	有機溶剤系塗料、合成樹脂塗料、塩化ビニルクロス、塩化ビニルシートなど	・肝臓や腎臓への影響			
家庭内農薬類: VOC、SVOC(注4) POM(注5)など	有機リン系: クロルピリホス ダイアジノン ホキシム フェニトロチオン フェンチオン など	防蟻剤 防虫剤 防カビ剤 殺菌剤	シロアリ対策用薬剤(土壌処理、床下に散布、土台に塗布)、集成材、合板、MDF、パーティクルボード、畳、複合フローリング、カーペット、カーテン、有機溶剤系塗料、塩化ビニルクロスなど	・有機リン系 = 免疫力の低下、ホルモン異常、生理不順、目の障害、自律神経失調症状、ノイローゼやうつ病など ・ピレスロイド系 = 嘔吐、下痢、頭痛、耳鳴り、眠気など ・カーバメート系 = 倦怠感、頭	・有機リン系の防蟻材であるクロルピリホスについては日本シロアリ対策協会が使用自粛としてきたが、'03年に施行されたシックハウス法により使用禁止となった ・カーバメート系の薬剤やクレ

	<p>ピレスロイド系： ペルメトリン など</p> <p>カーバメート系・ フェノカルブ パラジクロロベンゼン</p>	<u>木材保存剤</u>	木材（現場塗布）	<p>痛、めまい、吐き気、縮腫など</p> <p>・パラジクロロベンゼンは、マウス実験では発ガン注の報告もある</p>	<p>オソートも有害性が高いと言われており、使用しないほうがよい</p> <p>・ペルメトリンは環境ホルモンの疑いがあるといわれている</p> <p>・防腐、防カビ剤の物質名の多くは明らかにされていない</p>
<p>可塑剤： SVOC、POM など</p>	<p>フタル酸エステル類： フタル酸ジ-2-エチルヘキシル フタル酸ジ-n-ブチル など</p> <p>有機リン系： リン酸トリクレシル リン酸トリブチル など</p>	<u>可塑剤</u>	<p>塩化ビニルクロス・塩化ビニルシート・塩化ビニルタイルの接着剤（エポキシ系、酢酸ビニルエマルジョン、ノンホルム系など）</p> <p>塗料（有機溶剤系、合成樹脂エマルジョン、低臭型 NAD アクリル樹脂など）</p>	<p>・フタル酸エステル類 = 目、皮膚への刺激</p> <p>・有機リン系 = 嘔吐、腹痛、神経毒性</p>	<p>・可塑剤は樹脂の柔軟性を出すために使われる</p> <p>・フタル酸エステル類は環境ホルモンの疑いがあるといわれている</p> <p>・よく使用されている略称 フタル酸ジ-2-エチルヘキシル = DEHP/DOP フタル酸ジ-n-ブチル = DBP リン酸トリクレシル = TCP リン酸トリブチル = TBP</p>
樹脂モノマー：	<p>塩化ビニル（モノマー） 酢酸ビニル（モノマー） スチレン（モノマー） MDI など</p>	樹脂原料の単体	<p>塩化ビニルクロス、有機溶剤系塗料、樹脂系塗料、接着剤、カーペット、畳（樹脂ボード床）、樹脂が添加されている左官材、発泡系断熱材など</p>	<p>・肝臓、皮膚障害</p> <p>・塩化ビニルモノマー、スチレンモノマーは発ガン性の可能性があるといわれている</p>	
難燃剤	<p>有機リン系： トリクレシルホスフェート</p> <p>ハロゲン系： 塩化パラフィン など</p>	難燃剤	<p>塩化ビニルシート、ビニルクロス、紙クロス、布クロス、カーペット、カーテン、畳（樹脂ボード床）、難燃合板、発泡系断熱材など</p>		<p>・難燃剤については、物質名や安全性に関するデータがほとんど明らかにされていない</p>

優先取組物質：下線を引いた物質は、健康住宅研究会（平成 8 年に当時の建設省、通産省業者、厚生省、林野庁がシックハウス対策のため、共同で研究会を設置）で取り上げられた 3 物質と 3 薬剤の優先取組物質を表す。

(注 1)：世界保健機構（略称 WHO）による有機性室内空気汚染物質の沸点に応じた分類，化学物質を沸点により分類したもので、毒性による分類ではない

(注 2)：超揮発性有機化合物（略称 VVOC）

(注 3)：揮発性有機化合物（略称 VOC）

(注 4)：半揮発性有機化合物（略称 SVOC）

(注 5)：粒子状物質（略称 POM）

(注 6)：発ガン性に関しては IARC（国際ガン研究機関）の発ガン性評価を参考にした

注 1 の WHO による 4 分類